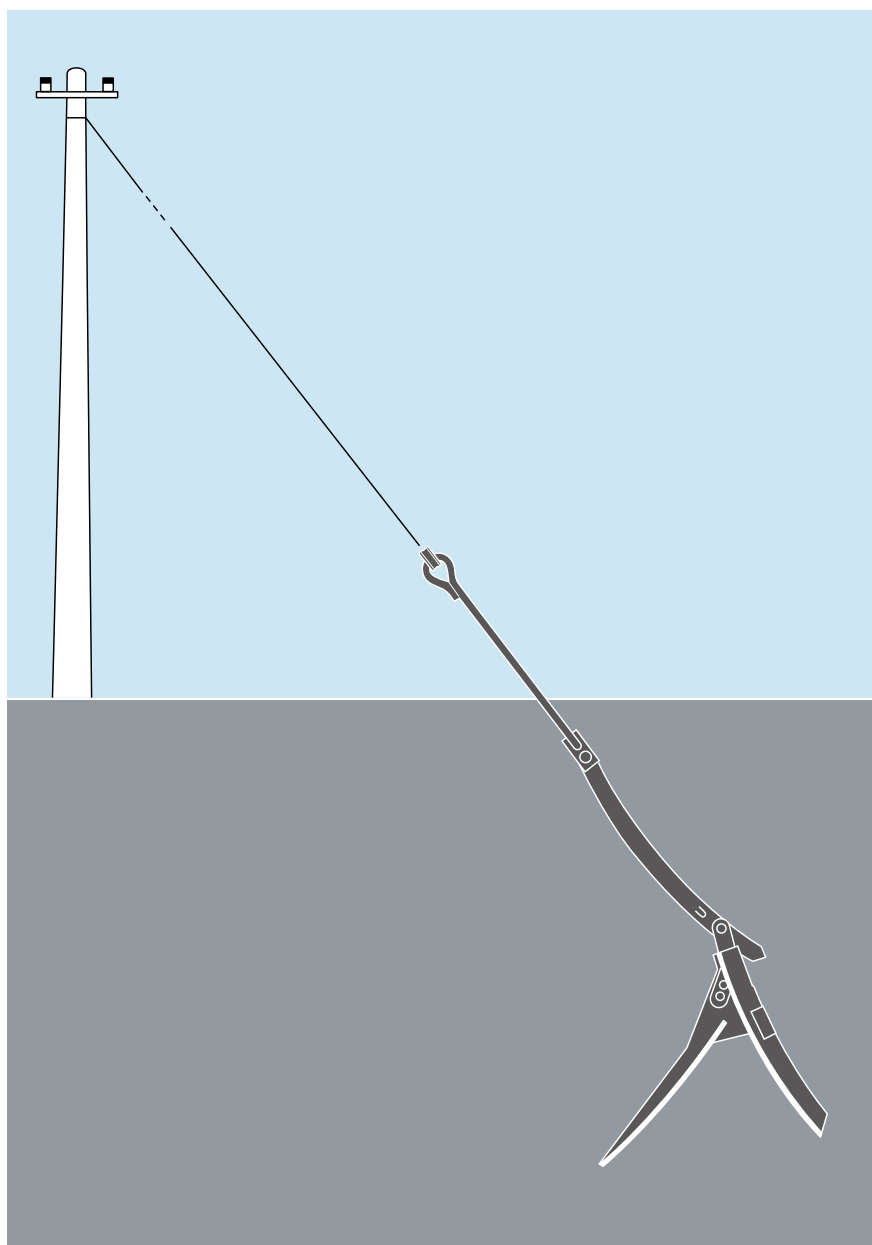


ANCHOR

支線アンカー



チコーアンカー80型

チコーアンカー80型



支線アンカーとは、強風や豪雪等の影響によって発生する電柱の傾斜あるいは倒壊事故を防止するため、荷重に対応する方向から電柱を大地に強く繋ぎ留めている「^{いかり}錨」の役目を果たしているものです。

チコーアンカー 80 型は、抵抗板体と安定板体を別々に打込み、地中で錨形に開いた状態で結合するアンカーです。自然のまま既成層土壤が持つ巨大な土圧を十二分に活用して、抜群に強い耐張力を発揮することができます。

現在、チコーアンカー 80 型の強力にして且つ安定した性能は、すべてのご需要先で高い評価をいただいております、NTT（日本電信電話株式会社）及び全国 10 電力会社の規格制定品として全国の電柱に設置されています。

機械強度

単位：kN

荷重状態	1 号	2 号	3 号	4 号	5 号	6 号	7 号	8 号
許容荷重	9.8	19.6	29.4	39.2	49.0	58.8	68.6	39.2

※ 設計荷重は許容荷重（機械強度）以内でご使用下さい。

耐張力試験結果

単位：kN

N 値の目安	最大耐張力							
	1 号	2 号	3 号	4 号	5 号	6 号	7 号	8 号
1 ～ 1.5	—	—	—	—	—	—	—	45.0
2 ～ 4	—	—	—	30.0	35.0	41.0	49.0	—
4 ～ 8	19.0	31.0	42.0	49.0	56.0	68.0	82.0	—
8 ～ 15	23.2	38.5	50.4	56.4	68.0	82.0	99.0	—

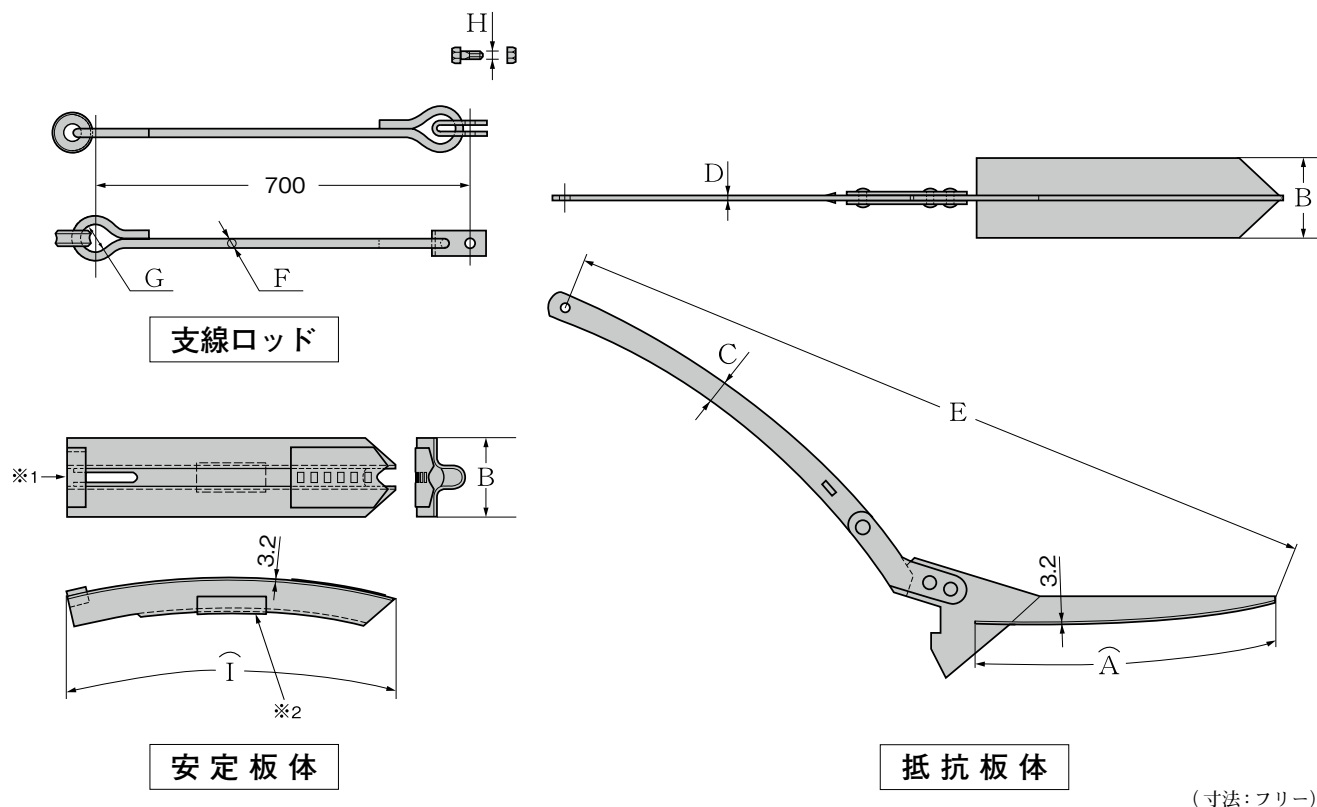
※ 1 表に示す最大耐張力は、関東ローム層において確認したものです。なお、最大耐張力発揮時は、土中内でなじみによる戻りが生じます。戻り量につきましては、地盤により異なるため、耐張力試験等によってご確認下さい。

※ 2 青字で示す最大耐張力は、許容荷重を超えています。

規格・寸法

単位：A～Iはmm、質量はkg

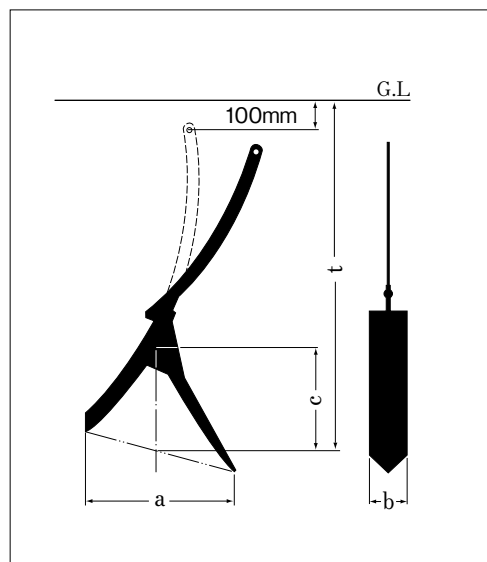
規格	A	B	C	D	E	F	G	H	I	質量	備考
1号	300	100	32	6	1025	9	30	M10	370	5.0	
2号	400	120	32	6	1110	13	40	M12	450	7.5	
3号	450	120	38	6	1150	16	50	M12	500	9.0	
4号	500	140	44	6	1210	16	50	M16	550	10.0	
5号	550	160	50	6	1260	19	60	M16	600	13.5	
6号	600	180	65	6	1330	19	60	M20	670	17.5	
7号	650	200	65	9	1410	22	70	M22	730	24.0	ダブルシンプルもあり
8号	1000	400	50	6	1680	16	33	M16	1100	31.0	軟弱土用 下部補強板



※1 6・7・8号はストッパーの形状が異なります。※2 安定板補強は5・6・7号用です。

施工図・施工寸法

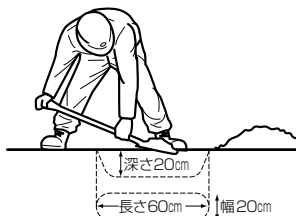
単位：m



規格	t	a	b	c
1号	1.04	0.35	0.10	0.22
2号	1.13	0.43	0.12	0.27
3号	1.18	0.53	0.12	0.30
4号	1.23	0.57	0.14	0.33
5号	1.26	0.65	0.16	0.35
6号	1.31	0.74	0.18	0.37
7号	1.36	0.84	0.20	0.40
8号	1.54	1.40	0.40	0.62

打込みの手順

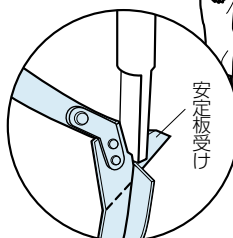
1. まず図の寸法に近い穴を掘ります。(1～8号共通)



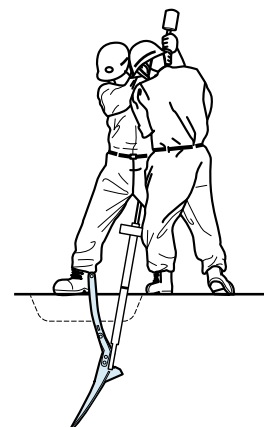
2. 穴の端に抵抗板体を図のように支線方向に向けて設置し、打込み棒で安定板受けの上端を叩いて打込みます。



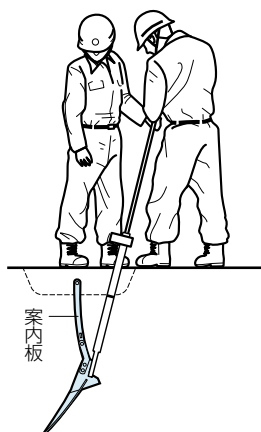
3. 安定板受けの上端が穴底に達したところで打込み筒を当てがいます。



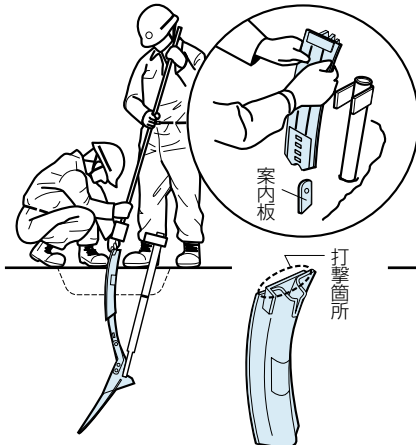
4. 打込み筒の中に打込み棒を挿入して、さらに打込みます。



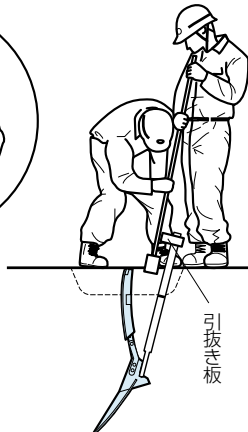
5. 案内板の上端が地表から約10cm低い位置になったところで抵抗板体の打込みを終わります。



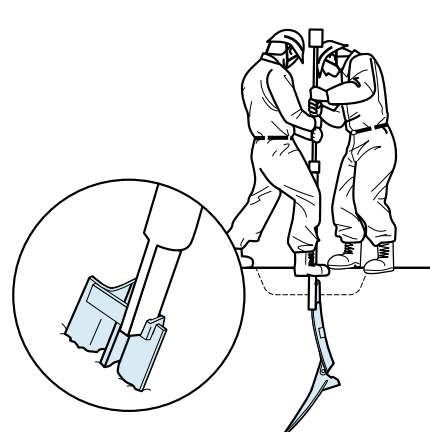
6. 打込み筒はそのままにして穴底に出ている案内板に安定板体を嵌め、その後端を叩いて打込みます。



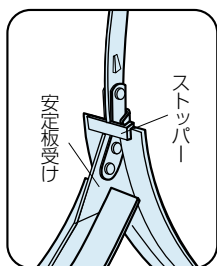
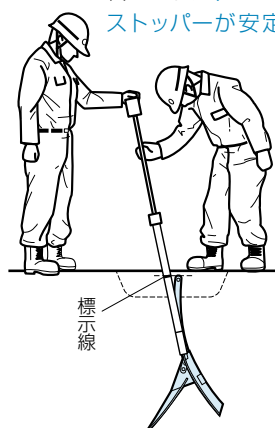
7. 安定板体が半分以上地中に没したところで打込み筒を引抜きます。(引抜き板を逆叩きすると簡単に抜けます。)



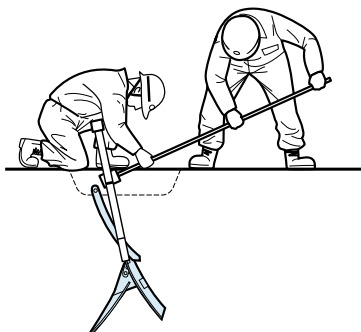
8. 打込み筒を安定板体の後端に当てがい、さらに打込みます。



9. 打込み筒に刻まれた標示線が案内板の上端に一致したところで安定板の打込みは終わります。(このとき地中では安定板体のストッパーが安定板受けに当たるため、打込み中にも十分手応えを感じます。)



10. 打込み筒をそのままの状態にして案内板が電柱の方向に倒れるよう軽く叩き、支線の角度に合せます。(案内板が動かないときは安定板体の打込みが不十分ですから、もう少し打込んでみてください。)



11. 打込み筒を抜いて支線ロッドを取付けます。穴を埋めて戻して作業は終わります。必ず図のような支線方向でご使用下さい。

